

## 2024年6月9日（日）第二礼拝「比較意識からの解放」エペソ2章10節

人はいつも他人と比較し、自分を判断します。それは、私たちが墮落して善悪の知識の木の実を取って食べた結果生じた意識です。聖書には、私たちは神の作品だと書かれています。商品は比較しますが、作品は比較しません。私たちは神様の最高傑作作品なのです。

第一番目、比較意識です。人は自分が他人より優れて見える時は優越感を感じ、他人より劣って見える時には、劣等感を感じます。このように他人と自分を比較することで自分の幸福感を捜すのです。この比較によって妬み、嫉妬、敵対心、自己卑下、プライドなどのサタンの意識が生まれます。ですから、比較することがそもそもの間違いなのです。私たちは神様の御言葉によって物事を判別しなければなりません。

第二番目、比較意識によって神様の愛や憐みを失います。マタイ20章で主人が仕事を求めて来る者たちを自分のぶどう園で雇う話が出てきます。主人は朝6時に出かけて行き、仕事を求める者たちをぶどう園で雇いました。9時、12時、15時も同様でした。更に主人は17時にも出かけて行き、雇用先の無い者たちをぶどう園で雇いました。夕方、主人は監督を呼び、最後に来た者たちから順に賃金の一デナリを払うように言います。早くから働いていた者たちは、もっと多くもらえるだろうと思っていましたが、同じく一デナリでした。彼らは最後に来た者たちと比較して、もらった一デナリに文句を言いました。彼らは比較意識が強かったのです。ヤコブとヨハネの母は、二人の息子が御国においてイエス様の右と左に座れるようにイエス様に頼みました。また、イエス様がゲッセマネに行かれる時、弟子たちは誰が一番偉いか互いに比較しました。私たちが救われたのは自分の働きによるものではありません。十字架の恵みによって、それを信じる信仰によって救われたのです。

第三番目、比較意識から解放されるには、神様との人格的な交わりが必要です。王族だったイザヤは、ウジヤ王が死んだ年に自分の国と自分の身を案じ祈ります。その時、神殿で神様の御座を体験しました。イザヤは聖なる神様を自分の目で見て、「ああ、私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた民の間に住んでいる。(イザヤ6:5)」と告白しました。自分の汚れを悟ったイザヤは、燃えさかる炭が口に触れる体験をします(聖霊の火)。イザヤは赦し贖ってくださる神様を体験し、それが主への深い感謝と主を愛する心に変えられたのです。私たちにもこの体験が日々必要です。神様との親密な交わりが無くなると、宗教心が根付き、自分の義を主張するようになります。自己義や嫉妬心を聖霊の火で燃やしていただき、イエス様だけが残るようにしなければなりません。私たちはイエス様と共に十字架につけられました。私たちの内にキリストがおられるのです。神様は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださいました。ダビデは王国を味わった人ですが、イザヤやエレミヤは神様からの言葉を人々に伝えても、彼らは耳を傾けず、厳しい状況下に置かれました。どのような召しであれ、神様が自分に用意された道に御霊と共に歩み、実を結ぶことが大切です。それは自分の業ではなく、全て主の御業です。アーメン！